

令和4年度入試の出題意図・ねらい

国際関係コース 総合型選抜

全体
<p>日本は世界的に見てもジェンダーギャップが大きいことは周知のことであるが、なかでも政治分野での女性議員数の少なさ、比率の低さは顕著になっている。この点について、クオータ制など男女議員比率の均衡策を導入した各国の実証研究を紹介した新聞記事を課題文として読み、基礎学力、内容把握、社会的・国際的問題への関心と理解、論理的な思考力と表現力を評価することをねらう出題とした。</p>
設問1
<p>「政治分野での男女の比率が均衡すると政策や経済はどうなるのか」という因果関係を検証した研究が、「民主主義は、全市民が参加するときに最もうまく機能する」ことについて何を明らかにしてきたか、課題文の内容把握に基づいて的確に整理して記述できるかを問うた。</p> <p>国際関係コースのアドミッション・ポリシーに基づいた評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none">● 《求める人材》1(2)の「日本語の文章の読解力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。● 《高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと》2の「まとまった分量のある日本語の文章を筋道立てて読み解く力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。● 《選抜の基本方針》における「論理的な思考力・表現力」を見る。
設問2
<p>クオータ制導入により生じた、「女性議員を意図的に増やすという介入は、選挙という競争をゆがませ、実力なき政治家を生む」という懸念に対して反証する研究内容について、課題文の内容把握に基づいて的確に整理して記述できるかを問うた。</p> <p>国際関係コースのアドミッション・ポリシーに基づいた評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none">● 《求める人材》1(2)の「日本語の文章の読解力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。● 《高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと》2の「まとまった分量のある日本語の文章を筋道立てて読み解く力と、口頭及び文章で適切な日本語を論理的に運用する力」を見る。● 《選抜の基本方針》における「論理的な思考力・表現力」を見る。
設問3
<p>日本の議会の女性議員数が少なく比率が低いことを踏まえ、過去から現在に至るまで「私たちは何を選んできたのか。取りこぼしてきたものは大きくないか」という著者の問いかけに対し、文章中で紹介されている様々な研究成果を参照しつつ、高等学校の地理歴史・公民分野で学習し習得した知識を活用しながら自己の見解を根拠立てて思考し表現できるかを問うた。評価に際しては、(1) 自己の見解の明確さ、(2) 根拠の明示、(3) 論理的な思考・表現、(4) 結論の妥当性、(5) 記述全体の構成と整合性、(6) 字数の適切な分量、を評価した。</p>

国際関係コースのアドミッション・ポリシーに基づいた評価の観点

- 《求める人材》2（1）の「北東アジアをはじめとする国際社会や、グローバル化が進む日本国内の社会が抱える諸課題について、根拠に基づき論理的な筋道を立てて考察し、自らの意見を説得力ある形でまとめ、他者に伝える力」を見る。
- 《高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと》4の「地理歴史・公民の知識を総合的に関連づけて問題関心を養い、自己の体験総体を生かして幅広い視野から日本及び世界で生じている複雑な社会現象を考察しようとする意欲」を見る。
- 《選抜の基本方針》における「社会への問題関心」、「論理的な思考力・表現力」を見る。